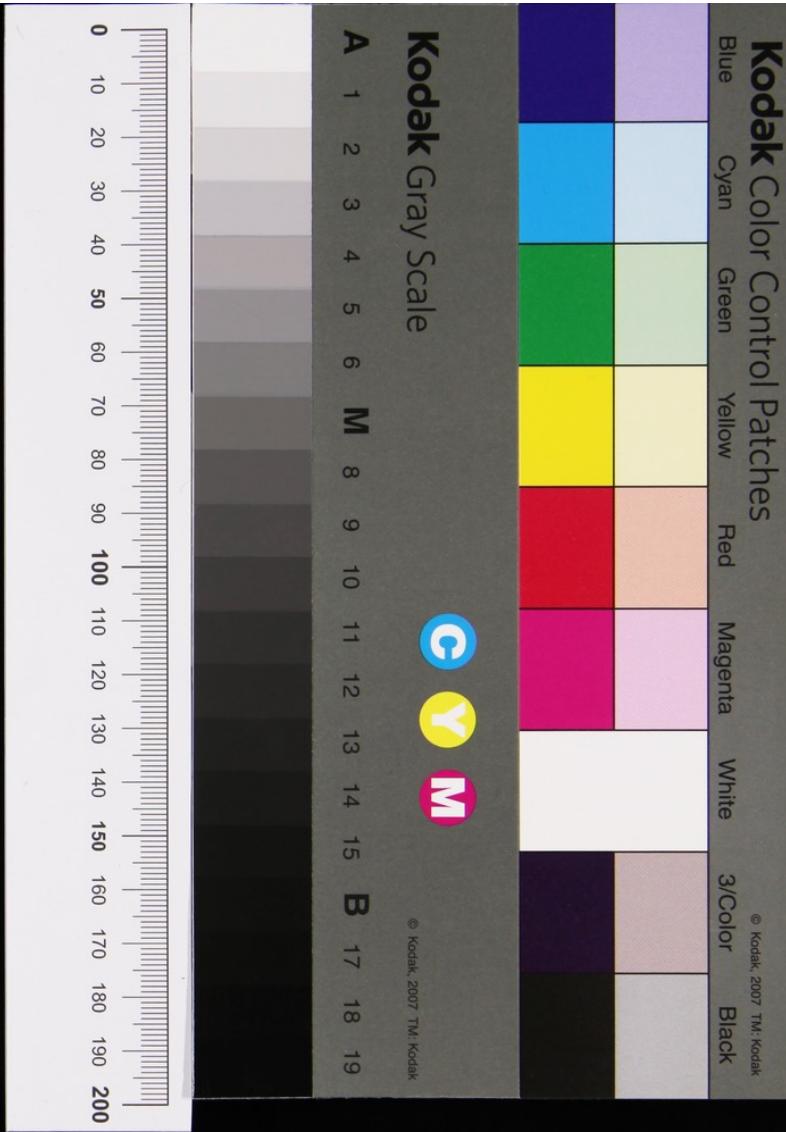
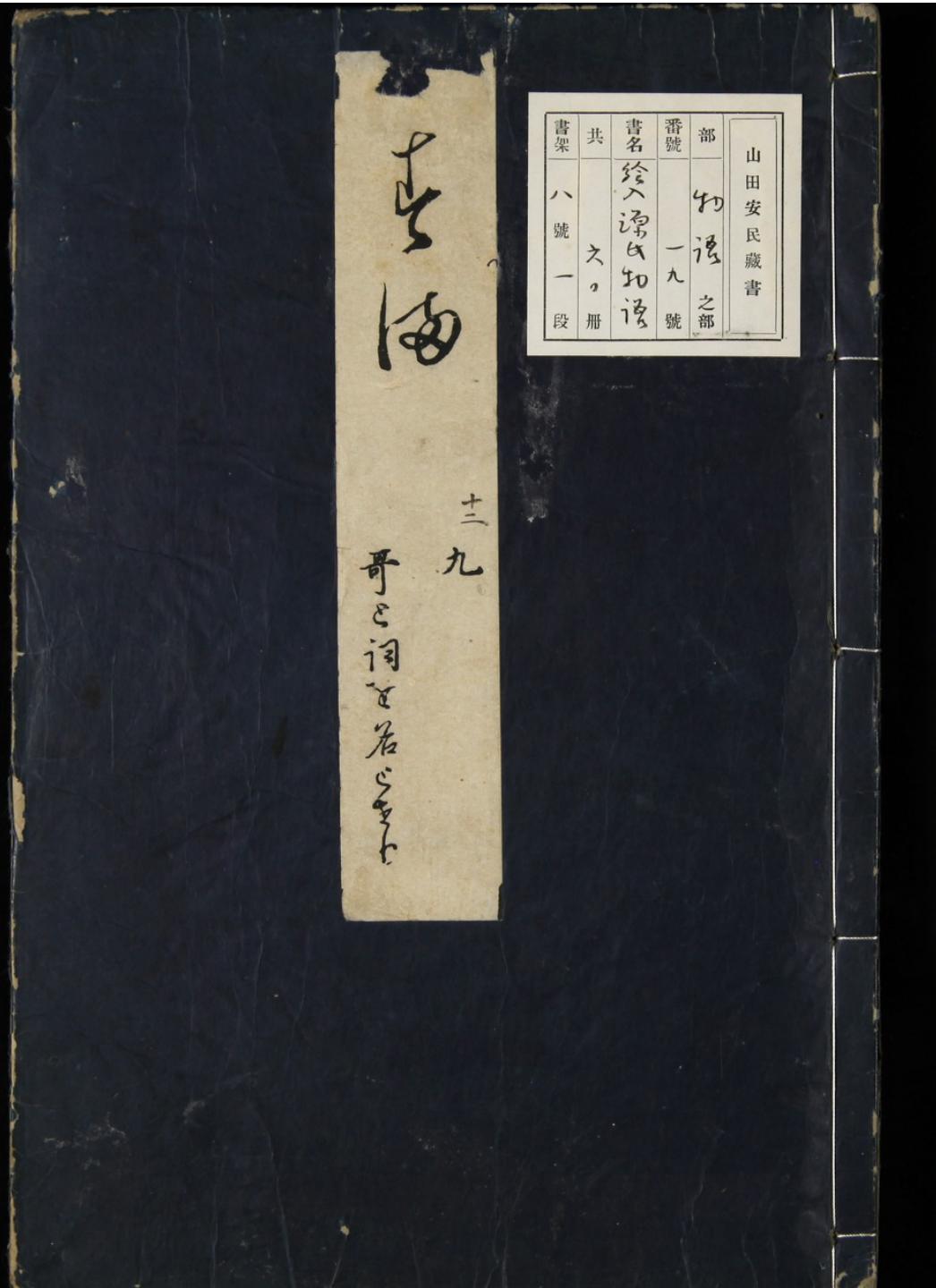


# 絵入源氏物語

## 巻十二 すま

楣山女学園大学デジタルライブラリー

楣山女学園大学図書館



源氏廿二の三月、より後の中まで

いと機知をもつておはりやうやくも娘のあま  
くれるそへてもうひまがひこゑの心づき  
うださよどむとぞれで表ううとゆうぐりて  
わざわらひさんじとくとくとばとねえんうてうま  
れ二日の程うそくはあくすすありくま  
おほつまうれうるめくがふも心地うのこゆ  
ううとくとせそれ程く限あくまちうあくま  
かくをうむうりよべうりゆくもじうくのくせよ  
やうてつうじうじうじうじうじうじうじ  
うくがふのびてあくとくよわとおがくううがく  
われどうう心地ううううううううううううう

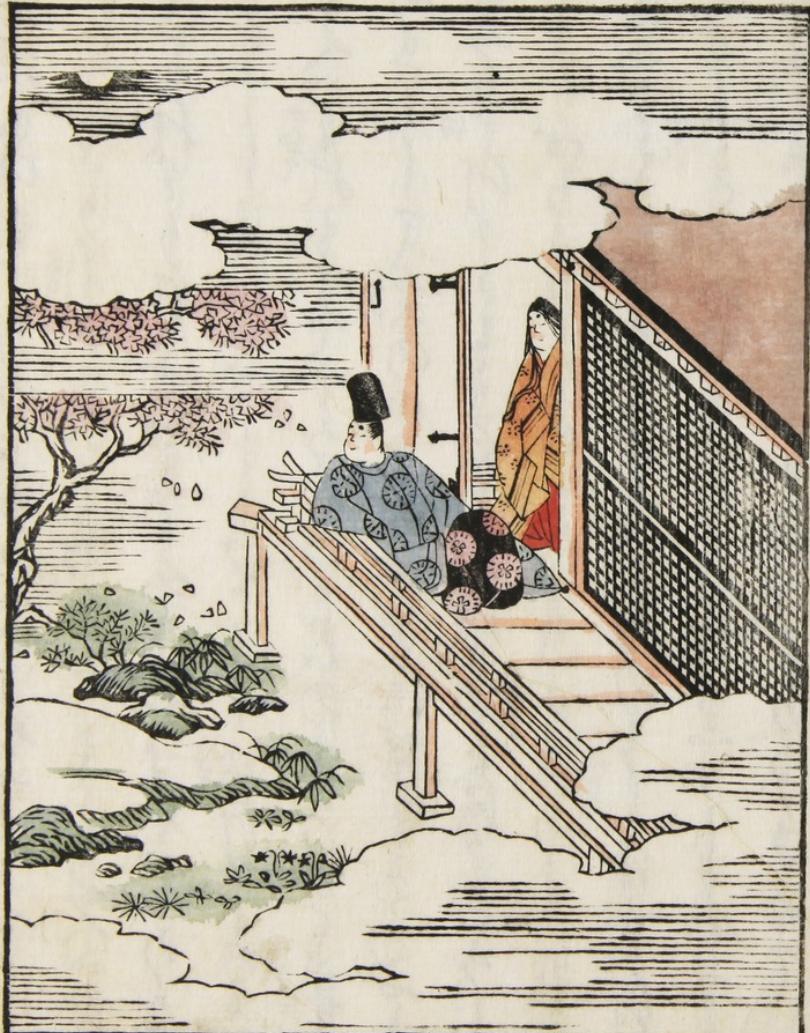
まうとひがふくわくらうんよくらううきのあく  
中くわくのうまううべうはなよど。おはくくも  
をおまひる。うん道みちをとむとおそれまくすくと  
あくびとまくじとてうかうげよおばうり。おれ  
あらう里さとよおつうくよととこまれうれ。おれ  
おほくくえううかくとおれゆとおれおげよおれでよの  
一のくわくのうかくとおれゆとおれおげよおれでよの  
くわくうかくうかくとおれゆとおれおげよおれでよの  
おひきひくわくとおれゆとおれおげよおれでよの  
おひきひくわくとおれゆとおれおげよおれでよの



とくに程よされぬとて氣すれどもひざのす人語  
つるがうそを思ひてげり。おもひてはまつてり  
きて。といひゆきありづれ。かくいふをかくらん  
ゆふ。かくらむと仰ゆる事あれば。まづりてくへる  
まきんとおきなれど。其のやうひまきんとおきり。若  
やけよもつうまく。おをもくへり。そく  
つて仰ゆる事あら。おもひてくのべて。そく  
まきんとおきり。ひざへり。おもひてく。今。せ中  
は。おうべを。おもひてく。おだ。おもひてく。やまきのゆ  
か。おうべを。おもひてく。おだ。おもひてく。やまきのゆ

世の事も仕事もあらへて、何處かの處で  
うすてもおどろきあつたのである。而してまことに  
それがうじゆであつて、あらへて、とぞ思ひてからう  
とおそれば、源氏とあらへて、とぞ思ひてからうとおそれば、  
じくはよそを仕事にうぢゆきて、やけにうぢゆきて、  
うのとくうぢゆきて、やけにうぢゆきて、  
されど、あらへて、とぞ思ひてからうとおそれば、  
やけのうこおりあらへのうぢゆきて、せせ  
さあらへて、とぞ思ひてからうとおそれば、  
うぢゆきて、とぞ思ひてからうとおそれば、

約すれよどりをもてまわせてづれむすづ  
約さんよ。アヒトのうりゆくとそれよりおもふるお  
もふるのどきのまくさせとのれんとおもふ  
くとくらめうかとどきやまくせきほじりのれ  
れき院のゆゑとおもふの袖もとくわらひあるのよ  
すく出でてがる紙の袖もとせしれ心ぞくわら  
まもえ心づくわらすくまほづきのうよ  
そろあくまざれありまくとされうれまく  
まくまくとおもへるうれな人をせよおよ  
まくへりまくせうくの今まくのひもくまく  
まくまくとおもへるうれな人をせよおよ



中納言のまゝさうとくんとくや。すまがさあ  
りてわたり。（源）おひんわんとくとくばつ  
きくわく。うけうせとくで。はやすもあうぬ  
べう／月ビとくもりそがて。うけうゆうの  
きへば。もすとく。ウタのれめれと。章相  
のくとく。下文のれめくとくせうとく。而し  
きくわく。うけうゆうのくとく。うけうくとくを  
うけうゆうのくとく。うけうくとくを  
うけうゆうのくとく。うけうくとくを  
うけうゆうのくとく。うけうくとくを

（源）邊山（源）煙（源）火（源）也（源）あまれ（源）煙  
やくうみよどゆくへとまくくうらす  
うそ。曉の割はうのやいひく。うそ。さひまう  
さす人（中納言）あらんととのく。びつとく。割と  
くとく。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ  
えぐひあくま。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ  
うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ  
うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ  
うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ  
うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ

卷之二

大  
家









のゆき。鳥もさばくすけがまつてしる  
 お絶れいの月のへとひる行ふくべられてえりう。  
 おゑのうとれどもうてげよぬくじゆすれ  
 月ひのやぢわら袖にせぐくともとあくも  
 くもやあみひうとづくとねばひづるがくろ  
 ぐくうれびほくくくくくくくくくくくく  
 りめぐりつるくくくくくくくくくくくく  
 くくんきくくくくくくくくくくくくくく  
 くの波のくくくくくくくくくくくく  
 あけぞれの月のよせかねくうげのくくもく  
 くくをねざくくくくくくくくくくくく  
 のくくとのくくくくくくくくくくくく  
 くくめくをねざくくくくくくくくくく  
 くくえくうせくくくくくくくくくく  
 えくすくうせくくくくくくくくくく  
 くくまくくくくくくくくくくくく  
 くくれくくくくくくくくくくくく  
 くくひくくくくくくくくくくくく  
 くくすくやくのくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくく



役の際とよきとすてちかくもれきこりて  
てひそかにげりありゆひとてびとひめくわ  
とおほどひくはくちがへれどおほくへとて  
うへとおほくすやうとくへおほくへとて  
すゑのへぐとあうじらるまくへおほくへとて  
とくの言ふへ院のれもくおびとてもうりおほくへ  
もく山へまくとておほくへとておほくへとて  
入道のやまうとておほくへとておほくへとて  
まうとておほくへとておほくへとておほくへとて  
いとくうもくめくとておほくへとておほくへとて  
心つかひどものおぬせとておほくへとておほくへとて  
うとくうとくとておほくへとておほくへとて  
うのようとくとておほくへとておほくへとて  
せゆはくされどおほくへとておほくへとて  
門がくうとくとておほくへとておほくへとて  
うちめべればくとておほくへとておほくへとて  
ぬつるわくとくとておほくへとておほくへとて  
のうとくとくとておほくへとておほくへとて  
くとくとくとておほくへとておほくへとて  
もくとくとくとておほくへとておほくへとて  
もくとくとくとておほくへとておほくへとて

原  
劉

山世のうきはくをうかうかとおもひてゐるが、さうして、  
原

うれりとてば馬とてぞおもすらうかうらと  
まれども一せのれありとてすりこれゆく  
うりとよ中よみえとての日よりのえすい  
ぞんとてづくとてのくとてのくとてのくとて  
うぐきつうくとてのくとてのくとてのくとて  
づくとてづくとてのくとてのくとてのくとて  
まうううらうりうりうりうりうりうり  
うりうりうりうりうりうりうりうりうり  
うりうりうりうりうりうりうりうりうり

のうらをも  
あひきあてまつりをなほり  
このものとげといふいふゆうん人

うけのまよやうかへへたをとせばとす。  
 心づくふもか馬からゆりゆて、心やきのる  
 とおぐと給にて。神よまくりよす。  
 ほ  
 うきせとおぎゆまとつるよとおうめのと  
 うすれ神よまくして。とのまよとおうめのと  
 ワキノトテ。おうじて、衣よりで、とこて  
 まう山ほんよまうて、おつゝめりあり。神  
 うめま人のやう。おが一歩。うごきうごきよ  
 もせらうくおめうへ。おんるうくわらひよ  
 うきうきげふ。うきのとくくくとくても。  
 とくうとあはれえうけとくうくうのじよ  
 うらがののぬく。ぬくのぬいさん。  
 いづくうきせよりとよしらう。おもは  
 道のまよびくちうて。かづくはくくよ。おなま  
 る月も雲ぐれて。森のまよびくちくす。  
 うきよもくよくよくよくよくよくよくよくよく  
 おまくよくよくよくよくよくよくよくよくよく  
 ほくよくよくよくよくよくよくよくよくよくよく  
 うきよくよくよくよくよくよくよくよくよくよく



せうやと氣金  
 ま心をうきゆくも。ものとあらのれ有  
 て、かづけよ。わざうて、わざとす  
 す。かづけせば、まきをきりとす。  
 あく。我心ひくよさんとのやうに  
 肩えやがせみ。よそややうゆすふまよ  
 い。ゆかぬ心心そげよ。かくうせん  
 もう。うんとそこ地をくさるのうれ  
 ぎくべ

金  
 まくらをうはうされど、まのめと  
 あく。うごみてて、ねむ  
 あらび比、まくらへおこへ。行  
 きのゆきゆきをかげく。かくうて、めん  
 うきよ。つねよまうされり。もくとひ  
 く。まくら。まくらやうとく。もく  
 く。まくらう。まくらう。まくらう。まく  
 うのせのひくと。れふとく。まくらう。まく  
 うのゆきゆき。もうれふとく。まくらう。まく  
 うのゆきゆき。ひくと。うれふとく。まくらう。まく





るとすべくあはゆきりの申納のよ邊カタハ  
 いえびけの家カツシキからこりてうねり海シマ  
 もやつて、夜ヨうろすびらうる山中ヤマナカる  
 頭カミのぬりうどウドてうづうとまふやく  
 どあうすりうめやまとぶくうとく  
 うひうすり、あるてうれすまおやうげ  
 うそくうかゆりうすくうもうちありもぬ  
 いとじのぬうろのすみわがへり  
 ちうさかどカタハの見えうのつまめで、まほん  
 まほんうめうれおとよもくらへり  
 うて、おとよも夜ヨうりのまほん



ておれとせぬ水うりやうる。」（おおきな）  
 て今やとせぬうりはまうらうおぼえのうる  
 あくまくとめぐれがまびてひそむいわうる。  
（ほん）猿どもとよもへんがくわどもくく  
 くそれをものぬわくすばうぐくをくれば  
 ちゆかのまくして、まじれくくいで年  
 月とすぐれんとすばくやうやうくくも  
 げりうゆくよがくのじよあうて、京のまく  
 しやくやくまくとくへんくく、（まつ）のまく  
 うりーとくまのゆくとけのゆよかのく。  
 うれぬーとくとくめくくくこゆくひやく  
 てくまへ人出ーとくま院へとくまう  
 たりとくま道のまくとくまやうとくま  
 れまくとくま

ねーとくまあくまくまくまくまくまの  
 浦べとくまくまくまくまくまくまの  
 まくまくまくまくまくまくまくまくま  
 のまくまくまくまくまくまくまくまく  
 のまくまくまくまくまくまくまくまく  
 のまくまくまくまくまくまくまくまく  
 のまくまくまくまくまくまくまくまく  
 のまくまくまくまくまくまくまくまく





おはすとくまゆるひそひとくを  
あひよしゆうわくもあれどりうがれの  
きのゆゑにゆくよやううへりぬ  
さればあれうとくを



きのびうす袖さばくてほのまくまうれしう  
 くらはうじゆうのうてうと涙かくうりぬけ  
 もううらら葉の葉さひやうべにうかくうめぐ  
 うとうひうまくへうめくはうじゆうのう  
 えうう袖さかうんづれのうはうくうくう  
 うべの波のうへうくをまうくうくうだ  
 うくのうまくわせを  
 はうまうしむかきの手よみれでうつま  
 ですれ袖さかうんうかんうれうじゆ  
 うかくうそづくのめうしめうれうめうれうめう  
 やうまういびくうもむほつうくうすまくう  
 終まうる室もううとねばくげうまくう  
 あうあ抜けた心ぐくうよあうくまくうれ  
 めうちうそくづれもううううひつうううあう  
 りうれまうのまくまくへうくうあう  
 あれまうる行のまのぶをうまうつーう  
 もうのうう袖れどあうばげほじうじうじ  
 のうあううううううう袖うそくまくうとまく  
 やうまうううううううううううううう  
 ゆうくまのけうのまくう作つうううううう  
 囲のうう袖のまくまくうううううううう

の風は今更にうそく  
すが、やがて風も止むて、まことに風  
消えよもと、あれは浪あわれも、やまくも  
あくとも、おなじやけの、やつてさうある。  
あれから、ゆへて、ひきこもりで、  
うがりされきて、あせも、うつして、うだつよ  
も、うつて、のどを、ぬけて、七月、すれて  
まくらぬいふ、うち、おもひのまうすれど、  
人のうつて、おもひのまうすれど、例のうつて、  
うつて、うづる根、うつて、うづる根、  
うづる根、うづる根、うづる根、うづる根、



勝  
ど。がうととのこかくのうとうじにけり。  
れのうびのつわでよ。門口ほ  
くへればよもてこゆふ人等をうる  
まくひりあきゆすれとのゆゑを窺  
のゆゑのゆゑ心をうべつらづく  
うとて固くとくよがんと筋もよせ申こ  
そあるよつてあらざりゆくと筋もよせとし  
あらざりゆくと筋もよせとしよせよせ  
あらざりゆくと筋もよせとしよせよせ  
の筋もよせとしよせよせよせよせよせ  
よせよせよせよせよせよせよせよせよせ

は廻りておれを西へとまへての後も  
すつてほらくとせられ、されば<sup>門前</sup>やひげ  
やうつるよとの事もすゞめでさうきものが  
まことにうしろへされ、まえと尾の筋もくほ  
まくとどくまくとくもくとくされば<sup>門前</sup>ぐ  
うかじせぬのやうなうじうちやうじ  
ぐのうよげぬのうのうのうをうけよ  
うめうめうめうめうめうめうめうめうめ  
心がうの松風よ海にすう遠れど、行平の  
中和云の詩をかきかみかみとひりくうむちう  
うづけるてうづけるてうづけるてうづけるて

御身代りておれよまほく浦波のあらう  
あやかしむとおもひきよべといだうて  
さくらのゆがやまののこれでわいかりあ  
のくみゆきやまくにそげるいよさん

残りひどいはうがやまくらむす立まれ  
ぐく宿よけたまよる家をつれて、まよ  
どもくとおどすまじうてゆくと、まよ  
あづひ高木山ばくとさんとおぼきだがふも  
よもれとくされじらのまよもじうへ  
つれくまよううくのうばつせんか  
らひをゑひうづくまよすうのあやか  
ごとくのゑよせうすひまよす  
のあよせうどりでくとあくとあくと  
のくうえし海のむらをうよれば  
やまくせぬうへて、げくまよのつそ内





くのまへじりこゑ

良信

え夜うねど民ア左浦

惟光

くまうねど民ア左浦

おとめのゆきのゆきのゆきの

くまうねど民ア左浦

惟光

のれ衣ミコトが今さらありますて入らぬぞとも

源

うのとひとへよわへ向ゆてひよき  
みどりの袖をされしろお氣へのやりけ五音歌  
ひきくかひくじとめぐらすてふきうけ

れどかの事は必ずその通り漏れてゐるやう  
えぐいのうすはつりがもとからつらわれ  
心ときどきおだねつてひそむとけがあひうなす  
ひくつもんじゆくらはしめのうちもくづく  
心げくつとくらはして立ちのうちのうしはづくといふ  
すうかめくらはんの声ぬりゆくとく

かほりさうあめ心ありうどりされまくさう  
さうかせうとこまくさうやくもくうむくはく  
ぬうのゆうてくまげいつくまうひて船のれ  
物語ゆくとおとへられゆきのかよくく  
おうまくいふやうとまうり色ゆくとしつけか  
くくうもゆくわひうてゆく人びとくべき  
これまでさじうてあまくやればおとく成  
思ひくらゆくとがゆくとえまくめと  
くくうまくいふやうんちどまくうらせらく  
どんのとぞまつねうびとくとくとく

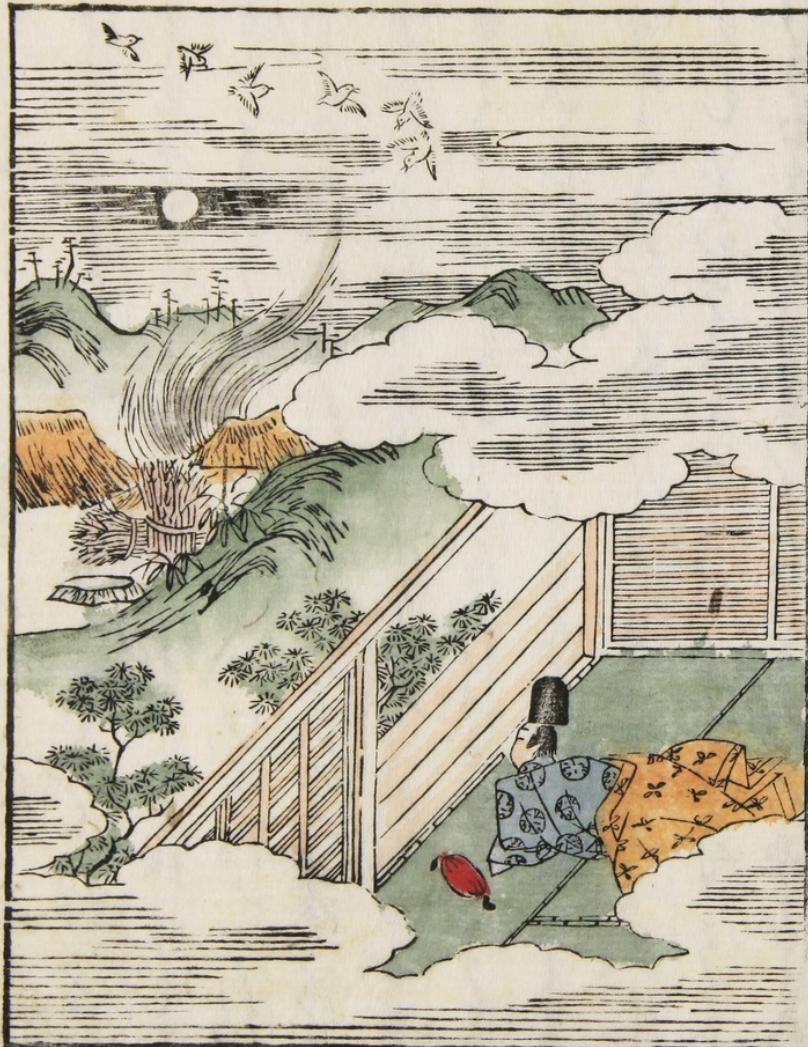
もぬひ／＼人さればがくもれどとらべども  
又／＼人とのあれどもくとくしておもむく  
とくまくを放／＼されてほせ／＼まく／＼く  
ぐ／＼め／＼く／＼く／＼くの／＼く／＼く／＼く  
ワ／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く  
やう／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く  
こ／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く  
／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く  
／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く

琴の音はひきとあ／＼つるてかへす  
よ／＼心ゑもく／＼や・まく／＼く／＼く／＼く  
そ／＼す／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く  
心う／＼てひく／＼の／＼くの／＼く／＼く  
や／＼す／＼れ／＼く／＼く／＼く／＼く  
／＼や／＼あり・じ／＼の／＼く／＼く  
人／＼す／＼け／＼く／＼く／＼く  
け／＼や／＼月日す／＼く／＼く／＼く  
め／＼す／＼く／＼く／＼く  
ま／＼す／＼く／＼く／＼く  
ま／＼す／＼く／＼く／＼く  
い／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く／＼く

古語　原詩　地口詩











あはゆきひきうてまくらん、山里れをうよのうば  
 とわがまくははうてうけうせをばくよみじ。  
 會うぐてゆふへどとくれうじゆまうすり  
 わんぬのくく、ゆも入るうぶとせりうづみく  
 きくさひづく、年ニテビ経吉ヨウキよまつて  
 をうり神カミのゆうりをとくにれどあひだ  
 けすまた年ハサマうりて日とくづれくちるよ  
 く一着ハタの萬マツの萬マツのゆううとくわくとくわく  
 細色ヒナズキうらうあくまづくびのとくわくとくわく  
 うらうあくまづくびのとくわくとくわく  
 年末ハシマうりてせびづくらー人のゆう  
 とくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
 とくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

いのくわくたまべのゆうとくわくとくわく  
 とくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
 中わく今ハ掌相ハサシヤウうりてへどのゆうとくわく  
 时せのゆうとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
 あらうとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
 とのゆうとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく



内馬うちまとむらうとくわやアラウトウトウ  
 そあうれどもう出でよちとおぐーとみ  
 おれとおすとこひて月月のふね月のま  
 そつ月のま月のま月のま月のま月のま月  
 一月のま月のま月のま月のま月のま月  
 かば月のま月のま月のま月のま月のま月  
 そり月のま月のま月のま月のま月のま月  
 そよ月のま月のま月のま月のま月のま月  
 さよ月のま月のま月のま月のま月のま月  
 およ月のま月のま月のま月のま月のま月  
 うよ月のま月のま月のま月のま月のま月



聲はずだ後はともの人されぬをうがすのが  
ぞこのうち罰切すべより教ほしけの事よ  
てれてづるあらのま

ほ  
う  
と  
く  
は  
い  
づ  
れ  
の  
ま  
う

あらかよりはとて立別のやうな  
をやゆごさんざんの船のつとめどりあらか  
まくおと(ほ)のふくらでけゆきかをくらす  
とくらが海をもれゆへうしゆされぬ  
べれどゆるわらてばいざるゆべらればうど  
落せりありびひゆの馬のまゆう。うそ  
あのびゆうとてゆくと、さかえのさありけかくよ  
ぐり。くとくにびゆくと、うそくと、さかえしゆくよ  
日やくくさうあらてくわくわくくくく  
うそくのうそく出ゆをほとくうはれゆゆゆゆ  
こゆうづくよしたひんちゆくゆくゆくゆく

雲うへておひるがわをよみ我は暮日  
のくすりあゆをさうひむれかくぬめり  
人びのうそきへるくまくまくせよ  
えまくまくまく約束ばい行うやこのうき

をまことにとうんざり仰のうごの後事相

アラシノカタニシテ、シテアラシノカタニシテ、シテアラ

友を無川に於て御見送り候。

よどきをやうめんでくら寝ぬる。まゆの下へく

アラタニシハシマリテハシマリテ

みまくらのひきとくとあらん

おやうごうりとひめづてこのくわくのう

الله يحيى

原

はるかに北の國へひそむ  
れよそぞひづくをもとめ  
ほんのぬきでひ

卷之三

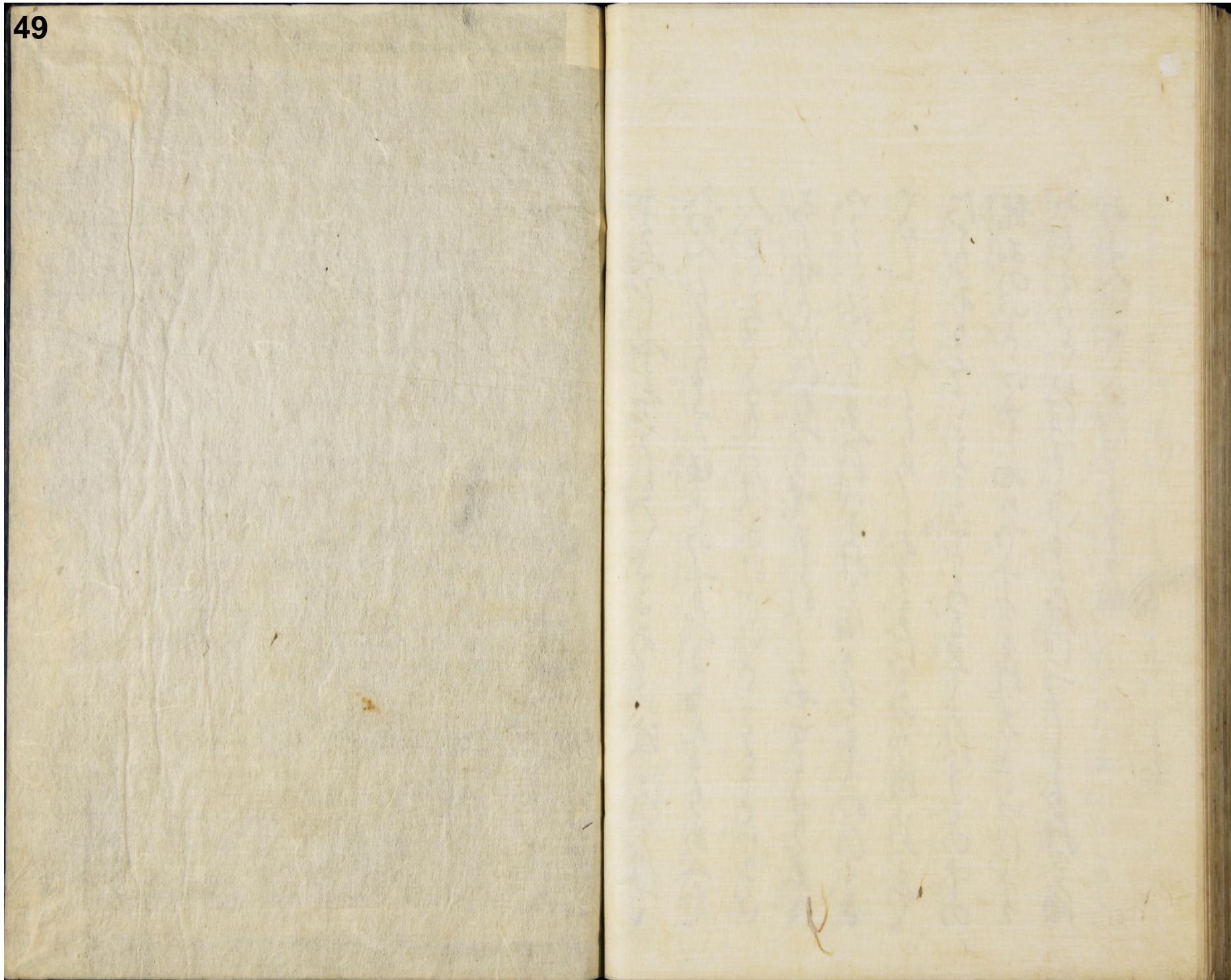
やとくうじの神も氣を失ふるが爲めに

それとやらぬがどのよはるはあき出でども

うふ、善めがくらむよきてば、かくはんじゆう

ちをもとめにあらへられがま  
きりほんとすまはるあひだ





50

